

平成9年6月(1997年) No. 378

## OMC映像フェスティバル 10月19日(日)13時半を予定

昨年まで朝日生命ホールで開いていたOMC・関西シネクラブ合同映像フェスティバルは、今年から例会場である阿倍野市民学習センターで行うことになりましたが、その開催予定日を世話役会で10月19日(日)としました。今回は昼間の発表会で入場者数がどう変わるか未知の分もありますが、150名収容ホールなので、心配はいらないと判断しています。開催日は大阪中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭とのからみもあり、まだ流動的ですが第一候補として10月19日としました。

なお、関西シネクラブは現在、会員数も少なく会費も徴収していないとのことで、今回からOMC単独開催とし、関西シネクラブ会員の作品は招待作品(無論出品料は必要)としたいと思います。出品料はいまのところ、7,000円位でいけるのではないかと試算しております。この上は出品作品の内容が問題ですが、OMCの伝統を守るためにもいい作品を集めたいものです。世話役会決めたことは下記のとおりです。

### 記

1. 発表会の名称……『OMC映像フェスティバル』
2. 日時………10月19日(日)13時開場、13時30分上映16時30分終了
3. 場所………阿倍野市民学習センター講堂にて
4. 未発表作品とする(特にフジやOVCのような大きなクラブ発表していないもの)
5. プログラムはハガキとする
6. S-VHSに統一する。フィルム作品はテレシネにすれば受付ける)
7. 上映時間………特に制限しないが20分以内とする(内容次第)
8. 候補作品は8月例会で決定し、直ちにプログラム編成に着手する。従って出品したい作品はOMC例会にどしどし持ってきて皆さんのご意見を聞きながら、よりよい作品に仕上げさせていただきようお願いいたします。

## 6月例会のお知らせ

6月例会は28日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で開催します。今月は浜松まつり撮影会作品の公開審査日です。参加された方は是非作品をお持ち下さい。なお、一般作品も時間の許す限り上映しますので、ご持参下さい。作品がないと例会も成り立ちません。楽しく充実した例会にしましょう。

## 5月例会のレポート

5月例会日はあいにくの曇り空から雨模様のお天気、会員さんの出足も今ひとつだったが、このところ会員数も増えており、終わってみれば17名の多きに達し、作品も8本を数えまですの例会となった。今月の司会は有村さん、書記合原さん、テープ係は岡本さんが担当。

<出席者>有村、井田、今井、岩井、江村、奥、岡本、勝、合原、花岡、中尾、前田、関、松本、安居、安居(良)、森、以上の17氏。

今月は講堂で会場の業務用投影機を使ってのビデオ上映だったが、どういふわけかノーマル音声が出ず、あわててHIFI作品から上映。ノーマル作品は後回しとし、いつもの例会用テレビを使っての変則例会となった。

### 上映作品

#### 1. ハウステンボス

安居 利次さん

11分

先日の浜松まつり撮影会の日と重なり、撮影会に行けなかったが長崎のハウステンボスをご夫婦そろって撮影旅行されて来られた。3部作に構成、1部は関空から九州へ、そして船でハウステンボスへと目的地に着くまでの記録。2部はハウステンボスの場内の様子、3部は帆船に乗り込んでの記録。この調子で12部まであるとか。1部と2部は合わせてはどうか等、構成の仕方に話題が尽きなかった。

#### 2. 閃光

安居 良枝さん

3分

線香花火による映像づくりという素晴らしい発想に敬意を表する。家の中でご主人に花火を持ってもらって撮影。ミラージュレンズによる表現やフォーカスを活かした映像づくり等工夫も見られる。ただ、ホワイトバランスはオートでなく、太陽光がよい等の助言が司会からあった。BGMのボーカルについての意見も出されたが、リズム感によって選曲されているので歌詞の意味は不明とか。外国語に強い方が見られて違和感もたれないか、やや気になるところだ。歌詞入りはそれなりに気を使った方がよいように思う。

#### 3. 水郷近江八幡

勝 成忠さん

7分

水郷近江八幡の舟遊びなど、たんねんに撮影されているが、ポイントがないのでやや淋しい。3月中旬にある左義長祭り等を加えれば生き生きとしてこよう。BGMも利根川旅情の曲を使ってあるので、曲を知っている人が見れ

ば違和感があるかも知れない。

#### 4. 僕の町の歴史街道

安居 利次さん

8分

5月17日午前2時からABCで深夜放送された2分間の安居作品の前後を録画されたもの。放送局の人と付き合うのに3時間も待たれた由。安居ご夫妻がビデオを通して、社会活動にも貢献されビデオファンを増やしておられることに敬意を表したい。今後もビデオで夫婦仲良く大いに楽しんでください。

#### 5. 秋の頃

森 保信さん

7分45秒

休憩後の後半はテレビが使えるようになったので、通常の例会と同じくテレビによる上映となった。森さんの作品「夏の頃」に引き続いて今度は秋編、次は冬編とか。森さんらしく美しいカットに仕上がっている。田舎の田んぼで棒を縛っているシーンが長々と出たが、かかしでも作っているのかと思ったが何もなし、少しカットした方がよさそうだ。秋祭りの”動”と秋の風景の”静”とをうまく結びつけたりして、再構成されたらよい作品になると思う。

#### 6. 帆船讃歌

今井 羨美さん

14分25秒

随分と熱心にたくさん撮られたもので、10隻位の帆船が出てくる。船内と船上と両方がら撮られたが、船上のカットも安定した画面になっている。ナレーションも珍しくご自分で入れておられて結構だが、ポイントが無いのが残念。作品としてどう構成するか、何をポイント（やまば）にするかが欲しいところだ。外人さんの表情などをもっとアップでせまる等、撮影にあたってねらいを絞ったらよかったと思う。

#### 7. 花と私達

有村 博さん

7分17秒

花博公園の「花ポートプロッサム」主催で、「花と暮らし」のコンテスト（6月30日締切り、10分以内）があるそうで、それに向けて制作されたという作品。なるほど綺麗な花がアップで沢山出てくる。画面が実に綺麗な。"花"の方は美しくてよいが、"暮らし"の方は飼い犬と飼い主との話で、それぞれはよいのだが、どうも両者のかかわり合いが浮いてしまっているように思う。もっと花と人間、花と犬といった絵づくりが欲しかった。花に水をやる奥さんのカットがあったが、唯一救われたような気がした。しかしこうしたテーマは取り付きやすいが作品にするには難しいことを改めて感じた次第。

#### 8. 比叡山紀行

合原 一夫さん

9分40秒

何年ぶりかで比叡山に行って撮影、世界文化遺産に登録された比叡山延暦寺は数々の点在する寺の総称、信長が全山焼き討ちした延暦寺で歴史的にも話題の多いところだが、相手が動かぬ寺であり過去の物語なので作品化は意外に難しい。最初のカットでマスクワークで過去の話をもとめたのが失敗だったようだ。マスクワークの絵を戦国時代の絵など工夫をこらせばよかった。また、一人前は”ひとりまえ”ではなく、”いちにんまえ”と呼ぶべきではないか、と司会の有村氏より指摘があった。

以上で作品上映は終わり、雨の中帰宅組みと二次会組とに別れて散会した。

来月は浜松まつり作品の公開コンテストの月、どんな作品が出るか今から楽しみである。

# 初めての試みで満員盛況の映写会 「日本を横断する映像発表会」

去る6月7日土曜日の午後、阿倍野市民学習センター講堂で行われた第1回「日本を横断する映像発表会」は、お天気にも恵まれ観客の出足もよく、150名定員の会場に満員のお客さんを集めて盛会のうちに開会、途中2回の休憩をはさみ5時間を超す映写の後、6時半無事終了しました。今回は映像作家発表会とはいえ、一般の人にはなじみない人たちの作品が多く、一クラブでの発表会のような出品者による観客動員が期待できませんので、動員数が拮据せずに心配させられました。しかし今回の催しに集まって来られた方は映像に関心をお持ちの方が多く、それだけにご熱心に5時間を超すという長丁場にも拘わらず殆ど最後までご観覧いただきました。今までの公開映写会にご来場の人たちにご案内した以外の新しい顔ぶれの方が近県の人だけでも64名もありました。

## ■加藤雅巳会長のご挨拶で開幕全体を3部構成で上映5時間を超す大映写会

進行係の合原OMC会長が13時15分開会宣言、冒頭、はるばる瀬戸市からご来場くださった日本アマチュア映像作家連盟会長、加藤雅巳氏よりご挨拶があり、直ちに第1部の上映に入りました。映写は関OMC世話役の提供によるシャープの明るい液晶プロジェクターが用いられ、会場備え付けのスクリーンでは小さいので直接白壁に投影しましたが、明るい大きな画面で映写出来ました。テープは音量レベルを合わせて1部ごとに1本のS-VHSテープにまとめてダビングしてあり、連続上映でしたので手間はかかりませんでした。近い将来デジタル化でこの方法が一般化するかもしれません。

映像連盟の事務局長、川上勝ご氏、同事務局、渡会猛氏、中国映像連盟から梶山正光氏、明石映像クラブ会長、猪飼行幸氏らの作家連盟諸氏をはじめ、川崎市から出品者の吉田博氏ら3名など、遠来の方がご来場され川上氏より紹介されました。

## ■上映作品（敬称略）

- <第一部> (1)ときめき夢紀行・滝と湖の里(新潟)河辺明彦、(2)南風(はいかじ)(沖縄)前森勝、(3)従軍慰安婦の証言を聴く会(福井)慶家誠、(4)崩壊の街を行く(京都)中島哲、(5)愛のバラード(福岡)川井巖、(6)裸の群像(岡山)成本数市、(7)冬の湖(大阪)関剛、
- <第2部> (8)コアジサシはいま(宮崎)大町信平、(9)炎で吹き込むハニワのいのち(春日井)鈴木星江、(10)追憶のマッキンリー(銚子)石毛文男、(11)鍛冶師・河上知明の世界(市川)鹿島隆雄、(12)挑む(神戸)本田裕信、(13)ヒロシマに生きる(広島)川上昭人
- <第3部> (14)冬を生きる(東京)早川潔、(15)3時の瞳(横浜)金子喜代子、(16)カラスなぜなく(広島)河田茂、(17)いくぞ・・・作文・僕の戦記より(川崎)吉田博、(18)巨木の祭り(静岡)浅井方通、(19)私のポレロ(岐阜)柏木喬、(20)閉会にあたって(広島)松原博臣、(21)白い音(瀬戸)加藤雅巳

(合原記)

## 会員名簿の訂正

先月号の名簿で、中尾雅博さんの電話番号が間違っていましたので、訂正をお願いします。正しくは06-628-0296です。(誤:628-2926)